

リーディングDXスクール事業【実践事例】

都城市立明道小学校（宮崎県）【指定校】

【取組内容④】Google アプリを活用した指定校と教育委員会の連絡調整

**1 これまでの経緯と取組**

初めはGoogle チャットとGoogle ドライブを活用し、教育委員会の担当と指定校の実務者会メンバー（教頭・教務主任・研究主任等）が連絡を取り合い、資料のやり取りをしていた。しかし、共有する資料が多くなりはじめ、共有ドライブだけでは検索に時間を要するようになった。

そこで、実務者会のメンバー専用のポータルサイトを開設したことで、必要な資料を探しやすくなり、効率的に進めることができるようになった。

**2 実務者会（市教委担当、指定校の担当者）の在り方**

対面で行う実務者会は毎月1回程度で、連絡のほとんどはGoogle チャットを活用した。実務者会では、写真（左）のように紙媒体の資料は配付せずに、各自端末を持ち寄り、クラウド上で共同に作業し、記録するようにした。

3 活用した主なアプリ

日程調整：Google スプレッドシート

実務者会の記録：Google ドキュメント

写真や資料の共有：Google ドライブ ※Google サイトで一元化

公開研究会の参加者名簿の共有：Google スプレッドシート

授業公開の指導案：Google ドキュメント

発表スライド：Google スライド

4 成果

共同編集機能やコメント機能を活用したことで、効率よく資料作成等を進めることができた。